

アサヒグループホールディングス株式会社  
2024 年 12 月期 決算説明会 説明概要②

日時： 2025 年 2 月 17 日 (月) 15 : 30~17 : 00

当社登壇者： 取締役 EVP 兼 Group Chief Financial Officer 崎田 薫

◆売上収益・事業利益 (為替一定) (P23)

- 2024 年の売上収益につきましては、欧州を中心として、主にプレミアム化の推進や価格改定効果など、売上単価の向上に伴う増収により、トータルでは前年比+2.1%の増収となりました。
- 事業利益につきましては、事業環境の悪化が継続しているオセアニアが減益となりましたが、価格改定を含むミックス改善に加え、各種コストの効率化に取り組んだことにより、主に日本と欧州が増益となり、トータルでは予想を若干下回る前年比+3.7%の増益となりました。
- 尚、注釈に記載しております通り、2024 年第 4 四半期に、一部グループ運営費の計上方法の見直しを行いました。
- 具体的には、第 3 四半期までは、当該年度に発生した AGPRO などの一部グループ運営費について各事業に費用を分散して計上すると共に、それに対応する連結調整を「調整額(全社・消去)」に計上していましたが、今回の見直しにより、このグループ運営費は、各セグメントの営業利益段階で計上することにいたしました。
- 2024 年の事業利益の「調整額(全社・消去)」の年間予想比が 62 億円マイナスとなっているのは、主にこの計上方法変更の影響であり、逆に、各地域の事業利益の予想比は、欧州で 30 億円程度、オセアニアで 20 億円程度、日本で 10 億円程度、それぞれプラスの影響を受けています。
- 連結全体の事業利益には影響はございませんので、ご了承頂ければと思います。
- 右側に記載しております 2025 年予想につきましては、売上収益は、各リージョンにおいて、引き続きプレミアム化、売上単価の向上を推進することなどにより、前年比 3.3%の増収を目指します。
- 事業利益につきましては、日本やオセアニアを中心に変動費などのコストアップを見込みますが、ミックス改善や各種効率化などにより、前年比+3.2%の増益を目指します。

- 尚、為替影響込みの年間予想につきましては、売上収益は前年比 1.0%の増収、事業利益は前年比 0.7%の増益を見込んでおります。各地域の為替影響額については、参考資料として 29 ページと 30 ページに掲載しております。

#### ◆営業利益・当期利益 (P24)

- 2024 年の営業利益につきましては、日本やオセアニアにおける事業統合関連費用などが増加しましたが、事業利益の増益に加え、日本の SCM 再編に伴い、配送センターなどの固定資産売却益の発生などにより、前年比 9.8%の増益となりました。
- 「親会社の所有者に帰属する当期利益」につきましても、前年比 17.1%の増益となりました。尚、日本の SCM 再編などによる一時影響を除いた調整後親会社の所有者に帰属する当期利益は、前年比 10.5%増益の 1,830 億円となりました。
- 2025 年予想につきましては、為替一定ベースの事業利益は増益ですが、前年の固定資産売却益の反動もあり、営業利益は前年比△2.6%の減益を見込んでおります。また「親会社の所有者に帰属する当期利益」については、金融収支の悪化および想定為替レートの円高影響もあり、前年比△7.6%の減益を見込んでおります。
- 尚、事業利益からの調整項目の予想につきましては、明細の進捗が分かりにくいところご指摘を頂いたため、予想は調整項目一本として明細は記載せず、四半期ごとに実績を開示していく形とさせていただきますので、ご了承願います。

#### ◆BS・CFの概要 (P25)

- 2024 年の資産合計では、円安影響に伴う、のれんや商標権が増加したことなどにより、トータルでは前期末比 1,175 億円増加の 5 兆 4,034 億円となりました。
- 金融債務残高は、外貨建て債務が円安影響により増加しておりますが、借入金の返済や社債の償還により、前期末比 1,316 億円減少の 1 兆 2,792 億円となりました。
- フリー・キャッシュ・フローについては、利益の成長に加えて、運転資本の改善施策などにより、予想を大きく上回る 3,060 億円を創出しました。
- また、一株当たり配当金につきましては、従来予想を 2 円上回る、8.7 円増配の 49 円といたしました。2025 年につきましては、後程ご説明する D O E 4 %を目指した累進配当の方針に基づき、前期比 3 円増配とし、今後も株主還元の実に努めてまいります。

- 尚、2025 年の Net Debt/EBITDA 倍率は、10 月に劣後債の償還を予定していることもあり、2.84 倍まで上昇する見込みです。

#### ◆日本 (P26)

- 2024 年の売上収益は、酒類・飲料・食品は増収となりましたが、外食事業の売却影響などにより、トータルでは前年並みとなりました。
- 事業利益は、変動費・固定費等のコストアップはありましたが、各事業の価格改定を含むミックス改善やコスト全般の抑制などにより、トータルでは予想を大きく上回り、前年比+12.9%の増益となりました。
- 2025 年の売上予想は、引き続き外食事業の売却影響は残りますが、各事業での価格改定効果を含む増収により、前年比+2.1%の増収を目指します。
- 事業利益は、変動費に加えて、アサヒグループジャパン社での人材、新規事業、サステナ等への投資拡大など、固定費はコストアップとなりますが、酒類や飲料の価格改定効果を中心にミックス改善を進め、前年比+2.3%の増益を目指します。
- 尚、本年の計画は価格改定に伴う需要減リスクを一定程度織り込んでおりますが、リスクが顕在化しなければ、更なる上乘せを目指していける予算とお考え頂ければと思います。
- また開示についてですが、25 年予想からは、事業利益については、欧州やオセアニアとの開示粒度の統一といった観点も踏まえ、事業別の事業利益の開示は廃止させていただきます。これまでの「酒類」・「飲料」・「食品」・「その他・事業内消去」の合算値での開示となります。
- 日本事業は、One Asahi として一体となった経営に移行する中、事業会社とアサヒグループジャパン社、及び各事業会社間のコスト按分について、明確な線引きが困難なものも出てきており、事業別の事業利益開示がミスリードに繋がる可能性がございます。移行する過程で情報開示が過度に後退しないよう、一定の説明は補足させていただきますので、ご了承頂ければと思います。

#### ◆欧州 (P27)

- 2024 年の売上収益は、ポーランドの数量は減少しましたが、全体として消費動向が安定する中、価格改定やプレミアムカテゴリ拡大に伴う単価向上に加えて、Octopi の連結効果もあり、前年比 4.6%の増収となりました。

- 事業利益は、人件費やマーケティング費などの固定費は増加しましたが、ミックス改善や原材料など変動費の抑制により予想を上回る前年比 11.1%の増益となりました。
- 2025 年の売上予想は、各国の主力ブランドを中心とした単価向上に加えて、ノンアルコールビールやグローバルブランドなどプレミアムカテゴリーの成長を図ることにより、前年比 4.1%の増収を目指します。
- 事業利益は、人件費や IT コストなどの増加を見込んでおりますが、プレミアム化を軸としたミックス改善などにより、前年比 6.5%の増益を目指します。

#### ◆オセアニア (P28)

- 2024 年の売上収益は、市場環境の悪化が継続したことなどにより、酒類の販売数量は減少しましたが、酒類と飲料それぞれの価格改定効果や RTD の成長などにより、前年比 2.4%の増収となりました。
- 事業利益は、価格改定などによるミックス改善に加え、各種コストの効率化を図りましたが、酒類の販売数量の減少や変動費コストアップなどにより、予想を大幅に下回る、前年比 8.2%の減益となりました。
- 2025 年の売上予想は、エクステンション商品の発売を含む RTD の継続的な成長や主力のビールブランドの回復に加えて、価格改定効果などにより、前年比 5.1%の増収を目指します。
- 事業利益は、コストアップ影響は引き続き残りますが、ミックス改善を伴う増収効果や下期を中心とした各種コスト効率化などにより、前年比 1.4%の増益を目指します。

以上